

まんさく

第313号

社会福祉法人 光寿会
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
題字 元理事長 太田 祖 電



5年ぶりに苑内に響き渡る`わんわん♪`に大興奮♡ ~6月8日~

アニマルセラピーとしてコロナ禍前は毎月お見えになっていたわんこ倶楽部(奥州市)のわんちゃんたちが久しぶりにご来苑。お年寄りたちの歓喜と悲鳴の聲が入り混じった賑やかで幸せなひと時♡(笑)

313号『まんさく』もくじ

☆2頁★

*錦秋湖マラソン応援団 *寄贈・面会・外出等
*「共生の場」へようこそ♪

☆3頁★

*災害を捉える

☆4頁★

*地域密着型事業

☆5頁★

*「今生より往く」

☆6頁★

*「光寿会の日々」(4コマ漫画)
*「自然法爾」(おきさんのお話) *「おわりに」

光寿会では、事務系・介護系・調理系等の職員を募集中です♪

錦秋湖マラソン応援団(^ ^)♪ 5月25日(日)

あいにくの雨風とかなりの寒さのため苑内からの応援となりましたが、全力応援がんばりましたね♡



『共生の場』へようこそ♪

【光寿苑の新しいお仲間のご紹介となります】



藤原 智子 さん
*西和賀町



中島 敬子 さん
*西和賀町

【お知らせ】御二人の他にも新しく入居された方々がおりますが、次号でお知らせ致します。

おかげさまでした

寄附

- ★ 匿名希望 様 [西和賀町]
- ★ 中島敏子 様 [滝沢市]

寄贈

- ★ 匿名希望 様 [西和賀町]
- ☆ 高橋 ちづ子 様 [下前]
- ☆ 山本 ミヤ 様 [湯川]
- ☆ 高橋 久子 様 [湯之沢]
- ☆ 高橋 康文 様 [新町]
- ☆ 深澤 ミサ 様 [太田]
- ☆ 小野 幸子 様 [北上市]
- ☆ 山口 要子 様 [奈良県]

面会・外泊

- 【5月1日〜31日】
- 【対面面会】
 - ★ 延べ146名(対象入居者31名)
 - ☆ 延べ33名(対象入居者7名)
 - 【自宅外出・外泊】
 - ★ 4人(外出)、1人(外泊)

来所

- 【6月8日 アニマルセラピー】
- ★ わんこ倶楽部 … 5名+5頭
- 【5月19日 第1回 運営推進会議】
- ☆ 運営推進会議委員 … 8名
- 【5月30日 ひなたぼっこ等視察】
- ☆ 西和賀さわうち病院長等 … 5名

光寿会へのご支援
★光寿苑 ☆ひなたぼっこ、湖畔の宿

想...

災害を捉える 石川県七尾市から発信⑥

『能登から被災地だより⑥』竹原了珠 氏



能登半島地震から1年半…。今回、竹原さんの「消えた記憶の代わりに「物語」を埋め合わせている自分」という言葉に、私はふと我が身を振り返りました。

間もなく、あの地震から一年半が経とうとしていきます。「復興・復興」という言葉だけでは括りきれない、どう現実と向き合っていくべきか、その溝と所を探しているような雰囲気を感じていきます。仮設住宅へのボランティアは減少し、忘れ去られていく寂しさや暮る中、今まで助け合ってきた絆が急速にほぐれているようにも見受けられます。

今月6月21日には、能登の浄土真宗へ真宗大谷派として、初めての規模な道弔法会を勤めます。その際、被災者の方々の「声」を聞き合う機会を設けたいと考え、ある住職に「お話をしてほしい」とお願いしました。

ところが、彼からは丁重な断りの返答がきました。
「私は消防団員も務めており、正月以来、多くの遺体や助けられなかった方々を見てきました。それを語れば、きっと私は壊れてしまうと思う。どうか堪忍して欲しい。」

私には、彼が悲しみを語る事で前

に進めるのではないかと期待も少なからずありました。しかし、その返答を通して、悲しい記憶に大きな蓋を閉じることが、ようやく現実を受け止め、少しずつ生活を取り戻している人々がいることを、改めて知らされたのです。

多くの方が、一年前の記憶を失っています。

「あれ程水が貴重だったのに、今では普通に水道を沢山使っているね。」

といった日々の記憶だけでなく、どうやって逃げたのか、どのような光景を目にしたのか、どんな厳しい言葉を交わしたのか、というような体験そのものの記憶が薄れているのです。私自身もまた、その例外ではありません。

しかし、記憶が消えて空っぽになった訳ではなく、消えた記憶の代わりに「物語」を埋め合わせている自分に気がつかせられます。まるで傷に「かさぶた」を作り止血するように、「物語」を紡ぐのです。私自身も、かつては恐怖と不安で满身創痕になりながら支援活動の

指揮を執っていたはずなのに、今では、すべて計算づくで一糸乱れずに作戦を遂行してきた、というように物語を語っています。

「自分たちも被災者だ。お金をもらえらんだら支援してあげてもいい。」

と言っていた人々が、今では、最初から支援の意欲にあふれていたかのような物語になっています。支援物資を沢山受け取った人が、そのことをすっかり忘れ、支援が足りないかと不満をもち出すこともあり。皆、そうやって思い出すと都合の悪い過去を忘れ、今を生きやすくするために過去を物語にして再構築しているのです。

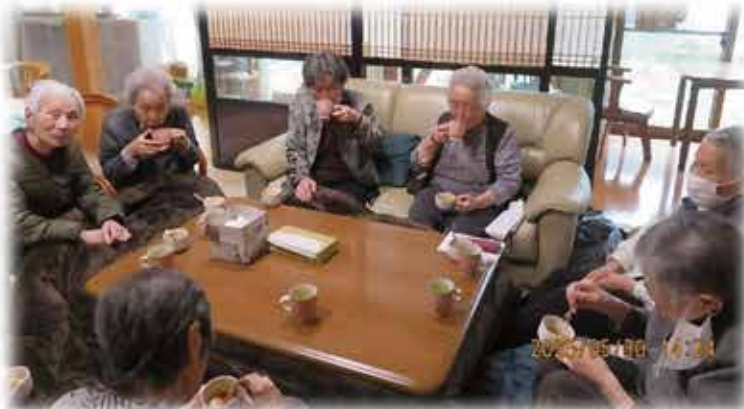
悲しみを受容するためのプロセスとして、心理学者のキューブラー・ロスが提唱した「五つのステージ」が有名ですが、悲しさや辛さを真正面から受けいれることは、非常に困難で大きなストレスを伴います。このストレスから逃れるため、私たちは無意識の内に忘れようとしたり、いつの間にか記憶をすり替えたりのことがある。人間は、全くよくできた存在です。

結

今月の登録者の方々
17名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

寒暖の差が多い今春ですが…「ひなたぼっこの日常」



【上2枚、右下】普段着のひなたぼっこたち

【左下】お茶会「折紙教室」

第1回『運営推進会議』(5月19日)

外部委員8名、職員2名

職 新たな委員の方もお迎えしました。民生児童委員の任期が今秋で満了になる予定の方もいるようです。今年度末いっぱいには当会の委員をお願いしたい考えですので、宜しくお願致します。

委 皆さん、宜しくお願致します。さて、7身寄りのない人にも実際出てきている中で、「誰も後見人になってもらえない」と保障人にもなってもらえない」という人の対応をいかにしていけるかという課題も出てきていますね。

委 生活保護だけでも受けていけばつながりがあるけれど、それすら入っていない環境にある人こそサポートが難しいのが実際の課題。

委 人の保障協会というものがあるとのこと。逝去後の身近整理をしてくれる業者もあります。

委 災害時の備えはどうでしょう？水があったり、反射ストロボであったりか備えとして必要です。

委 上野々地区公民館は、発電器を使用して全て対応できる仕組みとなっています。毎年の防災訓練で使用して点検しています。

『今生より往く』



最期まで強く豊かに生き抜いた姿



丁寧で優しい返事で相手を包む心

高橋 強 さん【98歳】

柏崎 ナツ さん【99歳】

“お菓子、食でえ〜” “ご飯はムせて(もう)のに、大好きな甘い物は全くムセることなく、美味しく食べる強さん。『ご飯よりお菓子!』 “この様な考えもいいなあ”と感心しました。娘さんたちに囲まれて、幸せな時間を一緒にさせて頂き、感謝です。ありがとうございました。

声掛けに対して、なまりがなく、“ありがとうね”等、丁寧に言葉を返してくれたナツさん。娘さんより、「旅館で働いていたからかも」とお聞きました。家族のために、精一杯働いてきた方なのだろうと思います。ナツさん、沢山のことを学ばせて頂きました。ありがとうございました。

《大通り「りんどう」佐々木(おり)》

《湯の町「6番地」高橋 舞》



厳しさの中に優しき家族想いの心



昔とった杵柄と上品な立ち振る舞い

近藤 照子 さん【87歳】

高橋 幸子 さん【96歳】

厳しさの中に、優しさがある方でした。建設業を営んでおり、“男の人を使うのに、強くならねば!”と生前お話しになっていました。娘さんのとても深い愛情、周りの方々の優しさに包まれて穏やかに逝かれました。声にならなくても、手を合せて伝えて下さった姿。ありがとうございました。

色白で、とっても肌がキレイな印刷屋のお母さん。花柄の服がとってもお似合っていました。お元気な頃から、歳を重ねても身体に染みついた動作(紙に印刷している様)は、私たちががんばろうと思える逞しい姿でした。幸子さんとお過ごせた楽しい時間、忘れません。ありがとうございました。

《大通り「あいさい」金子利加子》

《こまち通り「くじゃく」柴田真衣》



イラスト：1000

「住み慣れた場所で最期は過ごしてもらいたい。…今、地元のS病院が掲げている方針の一つである。今回もこうしてTさんは光寿苑に戻って来れた！住み慣れた場所の香りや音が「生きよう」とする本能を覚醒させるのだから

若葉して 御目の雫 ぬぐはばや

《松尾芭蕉》

第112回 丸田善明

自然法爾 (じねんほうに)

学生時代の終わりに友人たちと古都奈良を訪ね、唐招提寺で鑑真に会った。 父月。古都を旅するのはおそろいこれが最後だろうと、妻を誘って奈良を訪ねた。

駅前でレンタカーを借り、唐招提寺に向かう。あれからおおよそ60年。鑑真和尚は美しく整えられた御影堂に端座し、御目を瞑らし、微笑んでおられるようだった。

60年前も秋であった。 当時、御像は開山堂に安置され、扉は開かれていて、何かで隔てられる事もないままに端座する御像と対面した。慈愛を湛えた千二百年前の御像。令和の御像は化粧してお

られるが、天平の和上は古かるままの姿でおられた。開山堂の前に、「若葉して」の芭蕉の句碑があった。句の意は、そのまま私の心であった。

鑑真が「仏戒」を伝える役目を被うて来日したのは、天平勝宝5年(753年)の事である。唐から、日本への渡海は難波を極め、5度目の後失明となる。

しかし、和上は初志を貫き、も度目の挑戦でようやく「通」たという。東大寺に戒壇を築き、多くの仏弟子たちを誕生させた。 仏教の「いのち」は、仏の精神を生きる人の誕生に尽きる。

おわりに

この一ヶ月で、本人の入居者の看取りがあった。特に3日連続のお見送りがあったが、息を引きとられるその日にたどり着くまでの毎日は、気の張った連続ではあった。けれども、いの方のお見送りもとても平和と言うか、落ち着いた空気に包み込まれていたのだから。主な理由を想起してみる。

① 過度な医療に頼らず、体内に不必要なものを入れない対応。

② ご家族が傍につき、笑い声も含んだ「言葉の点滴」が耳元で施される空間(空気感)であった事。

③ 職員が、最後の日まで「らしく生きよう」とするお年寄りの命の傍に自然体で寄り添えた心構え。そこに居たすべての人にお陰様。

※ただ傍で寄り添うリ心の点滴にも…